

改善小集団活動計画／報告書(2／2)

テーマ名

共用測定具管理の改善

グループ名

L1, L2合同サークル

リーダー

風間

メンバー

赤池、八木、井上、佐藤、岡村、高橋、藤森

所属

技術試作部

作成者

風間

作成日

2003.09.15.

⑤対策

*現状の悪さを改善するための対策を検討する

問題点

対策項目

担当

サイズが異なる

サイズ別、使用頻度別に並べる

赤池

精度保証

定期検査をする (4回/年)

風間

3カ所に分散

1カ所に集約する (旋盤の近く/2段置き)

八木

表示がない

一目で分かる表示 (名称) をする

井上

置場が決まっていない

定位置を決める

佐藤

見えない

外から見えるようにする

岡村

モラルが低い

取扱い要領書を作る

高橋

使用者が分からない

名札を作る

藤森

ルールがない

目で見える管理を基本にリストを見なくても良いようにルール

風間

追加、入替がある

引き出し式にする

八木

⑥実施スケジュール

*PDCAに沿って対策案の実施スケジュールを立てる

計画

実績

対策項目

4

5

6

7

8

9

10

P

現状把握

目標設定

現状分析

問題点の抽出

対策検討

実施スケジュール作成

D

対策実施 (測定具の2S)

対策実施 (格納箱の2S)

対策実施 (取扱い要領書作成)

対策実施 (ルール化)

C

効果の確認

A

課題整理

⑦効果の確認

*有形効果について整理する

(分)

4分

7/1~7/15まで調査

目標達成

ムダ時間の削減

16.8H/8人.月⇒4.2H/8人.月

12.6H/月

1 回当たりの必要時間

リスト照合 (45秒)

保管棚探し (1分30秒)

追跡返却待ち (1分45秒)

1 分

表示を見て取り出す名札おく

〔改善前〕

〔改善後〕

⑧無形効果

*数値では表せない目に見えない効果、予想しなかった効果などを整理する

良かった点

全員で知恵を出し合った結果、予想以上の効果を体験している

⑨歯止め

*ルール化、標準化などにより元に戻らない処置・対策を考える

NYPsの標準作業とする

⑩今後の課題

*残された問題の対策、もっと良くするための提案などを整理する

1. モラルを高め、完全に掃除して返却するように使用要領書を改善していく

2. 棚の部分に改善を加える・・・9/30まで

3. 今回のアイデアや方式を治工具等にも反映させ、さらにムダ時間の削減に取り組む

⑪活動の反省

*活動の効果、課題とは別に良かった点、悪かった点など反省事項をまとめる

製作時間が見積もりを大きくオーバーした。・・・30時間→60時間

改善後

改善前

①作業性

②管理面

③精度保証

④作業者モラル

⑤保管環境

⑥返却状況

⑦掃除状況

⑧場所